



駒林小 学校便り



令和元年度
12月号
11月29日発行

11月を振り返って

校長 片山博文

11月は実に中身の濃い月でした。というのも9日（土）にはフェスティバル駒林、13日（水）からの3日間はオーストラリア、モアランド小5・6年生18名の学校訪問、21日（木）は私たち教員の道徳研究授業、22日（金）はマリンバ奏者による芸術鑑賞会。と全校規模の大きな行事が毎週のように続いたからです。子どもたちにとっても、先生たちにとってもこの1年間で最も忙しい月となりました。

フェスティバル駒林は1・2年生が生活科で、3年生以上は総合学習で学んできたことを発信する場でした。どのクラスも学んだことを誰にどのように伝えるのかを意識しながら、明るく、真剣に発表している姿が印象的でした。また、その後実施した学校評価アンケートでは保護者の皆様から多くのご意見ご感想をいただき、子どもたちの成長の様子を伺うことができました。どうもありがとうございました。

モアランド小学校との3日間の交流活動は本校の子どもたちにとって貴重な体験になりました。5・6年生が主体となって交流をしましたが、子どもたちは3日間の交流の中でしだいに



打ち解けてそれぞれの文化の違いを直に感じることができました。これを機会にさらに海外への関心を高めたり、語学学習への意欲に繋がったりしていきたいと思います。またホームステイや通訳ボランティアでご協力をいただいた保護者の皆様のおかげで交流活動を円滑に進めることができました。あらためて感謝を申し上げます。

教員の道徳授業研究会では、港北区内の校長や先生方が本校に参観に来ました。各学年1クラスずつ授業を公開しましたが、本校の6名の担任達は子どもたちのモラル感や人権感覚を向上させることをねらった授業提案をし、よい評価を得ることができました。



芸術鑑賞会では、プロのマリンバ奏者4名に来校いただき、全校で演奏を聴いたり、4・5年生がパーカッションを楽しんだりしました。演奏者からは音楽を積極的に楽しもうとする子どもたちの反応の良さをお褒めいただきました。

このように、様々な活動がめまぐるしく続く11月ではありましたが、私にとってうれしかったことは、それぞれの活動にしっかりと集中して取り組む子どもたちの姿があったことです。これらの体験がきっと子どもたちにとっての生きた学びと感性を育む時間になったことと信じています。

駒林小学校が子どもたちにとって「魅力的な学校」になるよう、これからも一つ一つの取組を大切に進めてまいります。今後とも皆様方のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。